

県かこ

地域医療連携ニュース



vol.

76

2017年2月号
 発行
 兵庫県立加古川医療センター
 T675-8555
 加古川市神野町神野203番地
 TEL: 079-497-7000
 (代表)
 TEL: 079-497-7011
 (地域医療連携部直通)
 FAX: 079-438-3756
 (地域医療連携部直通)
<http://www.kenkako.jp/>

もくじ

- 院内災害対策訓練の報告.....①
- ドクターヘリによる病院前救急診療.....②
- 診療科案内 皮膚科.....③
- 登録医制度のご案内.....④

平成28年度近畿地方DMATブロック訓練に連動した 院内災害対策訓練の報告



報告者

兵庫県立加古川医療センター 救急科
 DMAT活動拠点本部 本部長
板垣有亮

去る平成28年12月17日、近畿地方DMATブロック訓練に合わせて当院ではDMAT活動拠点本部訓練並びに災害拠点病院として院内全部門を動員した院内災害訓練を行いましたのでご報告致します。

1.DMAT活動拠点本部訓練

管轄地域は東播磨圏域並びに北播磨圏域、管下病院は東播磨44病院、北播磨23病院の計67病院でした。当院DMATを中心に参集した計14隊のDMATチームを用い、東播磨/北播磨の医療ニーズの吸い上げと診療支援/搬送支援を行いました。また、DMATを統括する本部機能として、兵庫県災害医療対策本部・兵庫県DMAT調整本部・他活動拠点本部とのWeb会議の上兵庫県全体と連動した管轄圏域の地域戦略構築を行いました。

2.災害拠点病院としての院内訓練

EMIS情報を基に、東播磨/北播磨の医療機関被災状況・搬出希望者数を把握し、当該傷病者を集約化すべく受入体制を整えました。具体的には電子カルテシステムをダウンさせた上で、紙運用下での院内全病棟を対象とした担送/護送/独歩/空床のリアルタイム把握、赤/黄/緑/黒エリアの傷病者の入院又は後方搬送判断を災害対策本部主導で一元管理しました。

結果、訓練時間中に37名の傷病者を受入、34名の傷病者を後方搬送しました。緑エリア傷病者については、今後帰宅又はDMAT活動拠点本部並びに東播磨地域医療情報センターとの連携により、地域の避難所情報を入手し誘導する計画を立案する予定となりました。



終わりに

当訓練は近畿地方DMAT全体の訓練を担当する兵庫県訓練としての視点から、当院のみでなく、東播磨県民局を含め東播磨の各医療機関、関係機関・団体の皆様にもご協力頂きました。東播磨圏域における管内医療機関のご入力結果を踏まえた地域戦略等は、後日東播磨県民局を通して皆様にご報告させて頂きますので、またご一読賜れますと幸いです。

引き続き、来年度以降も当院との連携を宜しくお願い申し上げます。

ドクターへリによる病院前救急診療 —ゴルフ場での救急活動—

病院前救急診療は、病院内での救急・集中治療と並ぶ当センターの重要な業務です。一例としてドクターへリによるゴルフ場での救急活動を紹介します。

兵庫県内にはゴルフ場が多数存在しますが、その多くは病院へのアクセスが悪い場所に立地しています。ゴルフ場で重篤な傷病者が発生した場合、救急車による搬送は長時間要し、病院到着時には既に救命の機会を逸していました。

しかし、ドクターへリの運行によりそのような状況は変化してきています。兵庫県ドクターへリの運行範囲内にあるゴルフ場には、出動要請からおよそ15分以内に上空到達可能であり、状況により傷病者が発生したゴルフコース内への着陸も可能です。

救急隊から処置を引き継いだドクターへリスタッフは、迅速に傷病者の病態を評価し、必要な初期治療を開始します。さらにその病態を病院に連絡し、病院内での治療に必要な薬剤や物品の準備、専門診療科の招集等を指示します。これにより病院搬送後、速やかな根本治療が可能となります。

心筋梗塞による心室細動で心肺停止状態となった方に、病院前診療（心肺蘇生処置）、循環器内科と協働した根本治療（経皮的冠動脈開設装置の導入、心臓カテーテル治療）、集中治療（脳低温療法）を継ぎ目なく行うことにより、生存退院、社会復帰を果たしたことも経験しています。

ドクターへリの出動件数は年々増加しており、今後も傷病者の救命および後遺症軽減に寄与して行きたいと思っています。

ドクターへリ Q & A

ドクターへリとは、人工呼吸器や除細動器など専用の医療機器を備え、救急医師と看護師を乗せ、直接救急患者の元に向かうヘリコプターです。



Q1 ドクターへリの運航時間はどうなっていますか？

原則として、午前8時30分から日没30分前まで365日、毎日運航します。

ただし、悪天候等の視界不良時は、運航を休止することがあります。



Q2 ドクターへリの要請は誰でもできるのですか？

出動要請は、一般の皆様から行なうことはできません。

119番通報を受けた消防機関が、患者の重症度等を判断して要請します。

Q3 ドクターへリには救急患者の他に何人乗れますか？

医師・看護師・操縦士・整備士の4人が必ず搭乗し、患者さんは最大2名まで搭乗できます。また、医師の判断でどうしても必要な場合は、付き添いの方1名まで搭乗できます。

Q4 ドクターへリを利用した場合、費用はかかりますか？

ドクターへリの搬送自体の費用はかかりません。救急現場やドクターへリの中で行った医療行為に対する医療費については、医療保険制度に基づき患者側に請求させていただきます。

（往診料（緊急）1045点 救急搬送料1300点など）

Q5 ドクターへリが出動にかかる時間はどのくらいですか？

ドクターへリの出動要請があってから、必ず4分以内で離陸しています。



診療科紹介

皮膚科

<スタッフ>

常勤医：足立厚子部長☆(アレルギー・膠原病)、白井成鎧医長(皮膚科一般)、井上友介医長(悪性腫瘍・皮膚外科・重症虚血肢)、山野希専攻医(皮膚科一般)。
非常勤医(外来のみ)：高井佳恵、千谷奈穂、加茂田麻衣子



<週間予定>

外来午前は月～金。受付は午前11時まで、午後は再診予約のみ。

アレルギー外来=月曜再診予約のみ、アレルギー外来は午前診察の上予約します。

<認定施設>

日本皮膚科学会教育認定施設。日本アレルギー学会認定教育施設。日本癌治療学会教育施設。生物学的製剤認定施設。

<医療設備>

Waldmann紫外線治療器(全身型・部分型UVA narrow band UVB)、エキシマライト(ウシオ電機)、イオントフォレーゼ、デルマトスコープ、炭酸ガスレーザー、Qスイッチアレックスレーザー、スポット型近赤外線治療器：スーパーライザー、電子線照射装置、静脈還流圧測定装置、センチネルリンパ節生検用ヤシンチカメラ

<各疾患に対する治療方針>

★アレルギー疾患=じんま疹、金属アレルギー、アナフィラキシー、重症型薬疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群について、原因成分まで決定し生活食事指導、代替品紹介をしています。蜂アレルギーや一部の薬物アレルギーには減感作治療も施行しています。救命用自己注射用キット(エピペン)の処方が可能です。

★膠原病、血管炎、類天疱瘡、天疱瘡などの自己免疫疾患、ベーチェット病=当地域はこれらの疾患に悩む患者さんが多発しています。臨床・病理により迅速な診断・精査し、入院も含めた加療・長期経過観察をしています。

★乾癬・膿瘍性乾癬・類乾癬にはオクソラレン内服全身光線治療、全身ナローバンド照射、生物学的製剤も使用しています。近年乾癬は生活習慣病に伴う全身疾患と位置づけられています。個々の患者さんの生活や皮膚および全身状態に合わせ、各々の治療法に伴う副作用にも注意しながら適切な治療をこころがけています。

★皮膚悪性リンパ腫=病型分類、病期にあわせて全身光線療法、化学療法、放射線療法をしています。

★皮膚悪性腫瘍(基底細胞癌、ポーエン病、悪性黒色腫、乳房外バジエット病、悪性軟部腫瘍など)=外科的手術、放射線治療、化学療法により集学的治療をしています。局所全摘除のみならずセンチネルリンパ節生検やリンパ節郭清も施行しています。

★皮膚良性腫瘍=外科的手術、時に炭酸ガスレーザーにより治療し、特に整容面の改善にも心がけています。

★熱傷=当院救急部、形成外科とともに重度熱傷まで対応が可能です。

★重度感染症・壊死性筋膜炎など=必要なときには当院救急部の全身管理をうけながら対応が可能です。

★陷入爪甲=フェノール法や人工爪、形状記憶合金で加療しています。

★脱毛症=紫外線療法・SADBEにて加療しています。

★美容=ケミカルピーリングその他の指導をしています。

★下肢静脈瘤=超音波診断の上、弹性ストッキングの指導、適応例には静脈硬化療法をしています。

★糖尿病壞疽などの虚血肢=難治例が多いのですが、血管外科・リハビリ科・形成外科などとチーム医療にて様々な方法を用いて血流を確認し、QOLを高めるための治療をしています。

<まとめ>

当院皮膚科は1960年旧県立加古川病院での開設以来50年以上東播磨地域の中核施設としての機能を果たしてきました。

アレルギー・膠原病・乾癬・重症感染症・重症虚血肢・熱傷から皮膚悪性腫瘍まで幅広く、かつそれぞれの疾患について専門的な診断・治療を行っています。スタッフ・医療機器・設備が充実しているうえ、ベッド数が14床と多く、外来加療困難例には入院加療を施行しています。悪性腫瘍診療や手術にも力を入れています。どうぞご利用ください。

<研究会の御案内>

加古川医師会の共催をいただき、毎年2回の東播磨皮膚科研究会を当院講堂で木曜日夕方に主催しています。また、当院痔瘡対策委員会主催の東播磨皮膚・創傷ケア研究会も、加古川医師会、播磨薬剤師会の共催をいただき当院講堂にて毎年開催し、地域の医師、看護師、薬剤師、介護士、ケースワーカーの方々をご招待しています。また近くになりましたご案内を差し上げます。ご参加お待ちしております。

県立加古川医療センター 登録医制度のご案内

当院では、当院と各医療機関において、患者様にできるだけ一貫性のある医療をご提供するため、相互が密接な医療連携を図ることを目的として、「登録医制度」を制定しております。平成22年7月の創設以来、約300施設のご登録をいただいております。ご登録いただければ、下記に記載しておりますように、当院ホームページ上で貴院様をご紹介させていただくことや、当院のインターネット予約、開放病床などをご利用いただくことが可能となります。

今回、登録医様とのより緊密な連携を意識できるよう、連携施設ステッカーを作成いたしました。来月以降、登録医様に順次発送させていただく予定しております。今後とも、地域の先生方と病診・病病連携の更なる強化を図り、患者様へのサービス向上に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひいたします。

また、現時点で、まだご登録されておられない医院・クリニック様におかれましては、ぜひともご検討いただけますよう、あわせてよろしくお願ひいたします。

(詳しくは、当院ホームページ：医療機関の皆様へ・登録医制度をご確認下さい。)



登録医の特典

1. 当院ホームページに登録医療機関一覧を掲載し、貴院様をご紹介いたします。
2. 貴院様より、インターネットにて当院の初診予約をお取りいただけます。
3. ご紹介いただいた患者様をできる限り受け入れ、また、当院から積極的に逆紹介いたします。
4. 当院の開放病床をご利用いただけます。
5. 検査、手術などの立ち会いも可能です。
6. 当院の図書室をご利用いただけます。
7. 当院が主催する学術講演会や研修会をご案内し、ご参加いただけます。



*登録医制度へのお問合せ、お申込みは、
地域医療連携部までご連絡下さい。
TEL: 079-497-7010 (直通)

